



2学年だより7月



平成 23 年 6 月 30 日発行

蒸し暑く梅雨明けが待ち遠しい日々が続きますが、いよいよ1学期も最後の月を迎えました。今月は1日で期末考査が終わり、防災訓練、全校が心一つにして取り組む野球応援（1回戦全校応援、2～4回戦自由応援、準々決・準決・決勝全校応援）、進路バス見学会、小論文模試、三者面談等が予定されています。健康管理に留意し、夏休みまでもう一息頑張りましょう。なお、今年度は震災で授業のスタートが遅れた分を補うため、例年より終業式が遅くなっており、また2日の第1土曜日が週休日で、9日の第2土曜日が授業日となりますのでお気をつけ下さい。ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

今月の予定

1日(金)	期末考査 3h 1.2年集会(頭髪チェック) 4h～授業	18日(月)	海の日
2日(土)	週休日	19日(火)	午前中授業 午後3者面談
6日(水)	防災訓練 野球応援練習 5.6h	26日(火)	
7日(木)	野球応援練習 3.4h	23日(土)	週休日
8日(金)	進路バス見学会	27日(水)	終業式 1h 大講 2h 終試 3h HR
9日(土)	授業日 進研模試(ST.S・A.B 纏替)	29日(金)	学校見学会準備
13日(水)	小論文答練 6h	30日(土)	学校見学会(中学生対象)
		31日(日)	

※野球応援予定（1回戦11日日立，2回戦18日水戸，3回戦22日，4回戦24日 準々決25日，準決27日，決勝28日 天候により変更有り）

芸術鑑賞会

今年度の芸術鑑賞会は、日立市民会館が震災の影響で使用できず、本校の体育館に於いて実施されました。劇団は「青年劇場」で、演目は「キュリー×キュリー」でした。以下にあらすじと生徒の感想文を紹介します。

あらすじ

パリ物理化学学校の講師ピエール・キュリーは、科学の探究に邁進する純粋な研究者。同僚のビクロとともに日夜「お金にならない研究」に明け暮れている。しかし校長シュッツ氏の頭にあるのは、科学アカデミーの勲章と、儲けを産む実用的な研究だけ。ある時、彼は二人に告げる。「ひとつ、一ヶ月以内にアカデミーに公式発表できる研究成果をあげる。ひとつ、ポーランドから来た若い女子学生を助っ人として迎え入れること」

黒いドレスに黒の帽子、ひつつめのまげといういかめしい姿で現れたその女性は、マリー・スクロドフスカ。科学の研究を続けるため、ロシアに支配された祖国を逃れはるばるパリまでやってきた。

おんぼろの実験室に、小さくともけっして消えることのない光が灯る。苦しい研究生生活の中、ピエールとマリーは、かけがえのない絆で結ばれていく……。〈パンフより引用〉

「理想の生き方」

1組 高橋 遥華

青年劇場による演劇「キュリー×キュリー」から私は多くのことを学ぶことができました。特にマリー・キュリーの「自分がやっていることは自己犠牲などではなく、自分の悦びのためだ」という台詞は強く印象に残っています。なぜなら、私はこれが現代を生きる自分にも当てはまる理想の生き方であると感じたからです。そして、私達の日常に溢れている心の葛藤を少しでも軽減してくれる言葉のようにも感じました。私は度々勉強することを苦痛に思うときがあります。このような邪念も、この言葉によってプラスの意味に変えることができます。これは本当に凄いことで、この思想をおもとして生涯を生きたマリーは人間としての模範であるような素晴らしい女性だと思いました。何事も不快な心を抜きとって愉しむことでマリーは充実した人生を送り、後世に偉大な功績を残すことができたのだらうと思います。

理想の生き方というものは個人によって大きく異なるものです。このマリーの台詞も個人で受け取り方は違うと思います。ただ、私にとってのこの言葉はこれからの人生の道標となり、大きな影響を与えるであろう価値のある言葉となりました。辛いことをそのまま辛いと思うのではなく、自分の悦びに変えて、私は自分らしい理想の生き方を追求していきたいです。



修学旅行

事前指導



パスポート申請

6月22日(水)の6時間目に小体育館に於いて、パスポート申請についての説明会を行いました。下書き用紙を全員に配付しましたので、記入して担任に必ず提出して下さい。また、担任から訂正を指示された場合は、指示に従って直して下さい。7月の三者面談時に正式の用紙と写真を渡しますので、下書き用紙の通り記入し写真を貼り付け、夏休み中にそれぞれの住民票のある自治体の窓口まで出向いて申請し、パスポートを受理して下さい。



教育実習

5/23(月)～6/10(金)までの3週間、本校卒業生6名(国語・地歴・理科・体育3)と日立北高校卒業生1名(書道)、計7名による教育実習が行われました。内3名が2学年のクラスを担当しました。皆さんと年齢も近く、学ぶことも多かったことと思います。この2学年の中からも数年後、教育実習にぜひ戻ってきて欲しいと願っています。



3組庄子先生 化学

5組小椋先生 保健

4組平山先生 日本史

A・Bコース集会

6/8(水)6時間にA・Bコース集会が行われ、生徒指導部長の五月女先生からお話をいただいた後、頭髪服装検査を行いました。今回もチェックされ再点検を受けた者がいました。次回は7/1(金)です。検査日は事前に示してありますので、そろそろチェックされる者がゼロになってもよいのですが……。



校歌斉唱

生徒指導部長の話

進路講演会(駒澤大学)

6/15(水)に駒澤大学入学センター所長小川隆先生をお招きし、駒澤大学特別講義をA・Bコース生徒対象に開催しました。演題は「ことばを学ぶ 世界を学ぶ」で、日本語と英語・中国語との比較をしながら文化の違いなどを交え、分かりやすくお話下さいました。時々壇上より生徒に質問を投げかけられ、生徒もそれに答えることにより講義に参加しながら興味深く拝聴させていただいたようです。駒澤大学は、7学部17学科あり、皆さんの知的好奇心に応えてくれる大学です。進路希望先の一つにぜひ加えてみて下さい。



進路希望調査結果

5/25(水)に実施された進路希望調査の結果が出ました。昨年11月の調査に比べ、就職希望者が70人→50人に減り、進学希望者が若干増えました。7月19日から三者面談が実施されます。特に未定の者は、再度進路についてじっくり考え、具体的な相談ができるようにしておきましょう。

	四大	短大	その他の大学	専門各種	就職	未定	計
男	93	7	3	29	33	12	177
女	51	9	0	45	17	6	128
全	144	16	3	74	50	18	305

東京大学大学院生講演会

講師：石戸雄飛さん(国際公共政策) 6/4(土)午後

「講演会に参加して」

1組 伊藤 香織

勉強するという事は、机に向かうことだけではなく、社会に興味を持って自主的に知識を習得しようとする事。そう実感できた講演でした。

講師の石戸さんは、高校生の時すでに、「政策を創りたい」という明確な目標を持って東大を志したそうです。また、合格の秘訣は、こうした学習の主体性に加えて、いつまでにどんな知識を身につけておくべきか学習計画を立て、忍耐強く勉強することにあるとおっしゃっていました。勉強は「やるしかないものだ」という一言が印象に残っています。

私は法学部を志望していますが、漠然とした法律への興味や誰かの役に立ちたいという気持ちがあるだけで、まだ、大学での学びをどう利用したいのかという点にははっきりしていません。しかし、大学では「なぜ学ぶのか」という問いの解答を学生一人ひとりがもつ必要があり、これはまた、受験に求められる力でもあるのではないかと思います。

私の主体性は、まだ形を持ち始めたばかりです。これからの高校生活のなかで社会との接点を考えながら、しっかりとしたもの育てていきたいと思っています。

